

再認識が生まれてくる。

いずれも、規模は小さいが、全て農民の自主的経済合理的な対処により下から上へ「内生的に発展してきた林業」である点が注目される。

タイの「森林破壊」は、農業問題と深く結び付いている。そこで農業問題を解決しつつ、森林資源の造成を行いうる手段としてこれまで森林村方式と呼ばれる修正タウンヤ法が、注目されてきた。現在でも森林村方式は最も重要な造林法であるが、それ単独では問題解決には程遠い。今でも国有林経営の立場から、森林破壊の原因としてしばしば「不法耕作」が挙げられる。しかし見方を変えれば、「不法耕作」とは、土地問題を取り巻く制度と実態あるいは法と慣習との遊離を反映しているにすぎない。その間を埋めるべく、1979年よりSTK (Sit Thi Thamkin) 土地保有証明計画を始め、土地の実質的官民有区分が進められている。今後、土地の保有所有関係の確立を基盤とした「内生的な林業発展」というのが“Social Forestry”に与えられた課題であるように思える。

新刊紹介

◎半乾燥地域における植林 (Peter Felker 編: Tree Plantings in Semi-Arid Regions. Elsevier, 1986, 邦価約 22,000 円. Reprinted from Forest Ecology and Management Vol. 16 No. 1-4 (1986))

1985年4月29日～5月2日に Texas A & I University で開かれたシンポジウム“Establishment and Productivity of Tree Plantings in Semi-Arid Regions”の記録論文集で、中南米・アフリカ・インド・オーストラリア・アメリカ合衆国の主に年降水量数百 mm 以下の半乾燥地植林に関する論文が集められている。

アフリカ等において砂漠化・樹木の減少が伝えられ、半乾燥地における乾燥化・砂漠化の防止、家畜飼料、燃材生産、土壤保全等のための植林が必要とされているが、本書では *Prosopis*, *Acacia*, *Leucaena*, *Eucalyptus* 等の樹種に関する植林、成長・生産力、生存率、豆果・葉の栄養分含量、育苗、根粒菌・VA 菌根菌、土壤、施肥、耕起、除草、挿木、組織培養、遺伝変異、食品加工等多岐にわたる内容の論文が収録されている。中南米における飼料・燃材・用材木 *Prosopis* を扱った論文が最も多いが、熱帯地域についても“乾燥熱帯西アフリカへのオーストラリア産アカシア導入試験結果”等興味深い論文が多い。本書の前書きには編者の、半乾燥地における土壤養分、N 固定、交配特性、非灌漑植林法、燃材生産力等の植林上必要なデータが不足しているという意見が書かれている。乾燥地植林研究の現状を知るための有用な一冊と言えよう。

(藤井久雄)